

「多様な主体による協働のまちづくり推進指針（案）」に係る意見募集結果

1 意見募集期間

令和6年2月5日（月曜日）から令和6年3月1日（金曜日）まで

2 意見募集の結果

述べ件数 12件
意見提出者数 4名

3 ご意見要旨とそれに対する本町の考え方

No.	大項目	小項目	ご意見要旨	本町の考え方
1	全般		指針＝向かうべき方向を示す大方針 … ですから具体性よりも理念が優先することは一定理解をするものの、できれば現時点で「多様な主体による協働」が進められている好事例をあげ(5)「協働」の進め方の1から5に沿った経過を記載したほうがイメージしやすいのではないのでしょうか。	町内での取組事例や地域と行政との対話・意見交流会で出された『地域の“あったらいいな”や“できたらいいな”』の意見やアイデアを地域づくりのヒントにさせていただける内容を別途共有できるよう、貴重なご意見として参考にさせていただきます。
2	全般		<p>「まちづくり」に興味のある私に、友人が1月28日実施の『協働のまちづくりシンポジウム』の資料を届けてくれました。「推進指針（案）」の全体を知りたいと思い与謝野町公式ホームページで「多様な主体による協働のまちづくり推進指針案」と入力し「検索」をクリックしたところ「お探しの記事が見つかりません」と出ました。ひょっとしてと思い「（案）」と入力したところ「推進（案）への意見募集」にたどりつくことができました。「推進指針」でも可能でした。他のパブコメと違い、メディアリテラシーの低い私は戸惑いました。PDF「推進（案）」を読み、人生の最晩年をふるさと与謝野町で過ごそうと決心したことは間違いではなかったと安心しました。明るい未来がここにあると。2022年12月に町民となった私は与謝野町のもつ人的・物的資源の豊かさに日々驚き、今日まで過ごしてきました。この間毎日一日3.5人の方々とはじっくりお話しする機会をもつことができたのですが、一つ不思議に思っていることがあります。会話の中で「与謝野町はだんだんよくなってきた」「これからますますよくなるよ」と未来への可能性を語られたという記憶がないのです。否定的・悲観的なものばかりです。これは日本人がもっている謙虚さ、遠慮深さのなせる業なのでしょうか!? 正直な感想なのでしょうか? この疑問の答を探したいと思っています。</p> <p>「地域課題」のひとつである交通機関についての些細な経験がヒントを与えてくれるのかもしれませんが。運転免許を持たずに今日まで生きてきた私にとって自由に生き活きと「老いを生きる」ための手がかりは、如何にして交通手段を手に入れるかです。「与謝野町地域公共交通計画（案）」のなかで「基幹的な交通」に位置づけられている丹海バスを腐心しながら移動しています。2024年1月末に回数券を購入して初めてコミュニティバスに乗りました。昨年10月からのダイヤです。それが2月28日の新聞発表によると1年で廃線になるということを知りました。驚きました。つまり「未来の本格運行に向けて実証運行を開始」された「よさの乗合交通」を利用せよと指示されているということですね。この小さな谷間で片道300円の料金を払って。これを「住み心地がよい」町だと考えよ、ということなのでしょう。与謝野町で暮らす者が「自分の行きたいところへ行くためにはどのようにすればよいか」それを知るためにはどこへ行けば良いのでしょうか。「協働のまちづくり」は行政に頼らずに自分でその場を作ることなのでしょう。どんどん衰えゆく理解力の持ち主としては挫けそうです。「もう諦めます」となってしまうそうです。行きたいところはあるけれど、ややこしくて面倒で、結局家にひきこもり、フレイルになっていくのでしょうか。湖の課題を解決できる手がかりとなるものを「指針（案）」の中に見い出すことは、今のところできていません。これまで私がお話ししてきた人々の気持ちが少しわかるように思います。人々（町民）との豊かな交流のなかで、実のある未来を描けるようこれからも模索を続けていきたいと思っています。ものすごく美味しそうな御馳走の写真が載っているメニューを手元にもっていながら飢える人にならないように。</p> <p>参考までに、「主体」は本来「多様」なものとして存在しています。 「男たちの昭和」から「未来への令和」へを目標にして。</p>	<p>町公式ホームページにおいて、本指針（案）にかかるパブリックコメント意見募集ページが検索しづらかった件に関しお詫び申し上げます。</p> <p>本指針（案）に示す協働のまちづくりは、指針の名称にもあるように、多様な主体が対話と協働で支え合う地域を目指すものです。</p> <p>地域課題の一つとして例示いただきました地域交通の状況につきましても、交通事業者、行政、地域が協働し、新たな交通サービスを提供し、町民の皆さまの交通手段の維持・確保に向け取り組んでいるところです。目的地までの具体的な交通手段の提示など広報周知に努めます。</p> <p>指針（案）P.4～6に記載しておりますように、町民、自治会、地区公民館、地域活動団体、学校、事業者、福祉団体、農業者団体、行政など、それぞれの役割を果たしながら、強みと得意を補完・協力する「支え合い・助け合い」により、いつまでも暮らしやすく、これからも住み続けたいと感じられる地域づくり・まちづくりを進めてまいりたいと考えています。</p> <p>貴重なご意見として承るとともに、今後とも町政の推進にご協力いただきますようお願いいたします。</p>

3	基本的な考え方	P.4_(3) 「協働」により目指すまち	<p>(自助・協働・公助)と(行政)と(町民)がする事の仕分けについて</p> <p>10年前に行革委員をさせて頂いた時に、自助～公助の必要性は声を大にして発言しました。ずっと隣組を基本に、町内会→区→町・府であり、近くの老人さんは近所のあっさん、あばはんが心を配り手助けをする事。その時には1市10町の再合併をせんならん時が必ず来るので、峰山中心で無く、旧野田川を中心に本庁舎を引っ張り、土地の確保と資金を積んでおく事。行政は商売できないので、補助金と手続きををする。“まゆ”とかホップが悪い例。まめっこ米を「うまにゃー米」と「変形米」である!!化成肥料を入れないので無理。JAと府に任せる。問屋がブレンドして使っているのと、結局売れ残りを安くして流通している。結論は、補助金だけのみの事業はベケ!!等々です!!</p>	<p>「助け合い、支え合う」最も基本的な形は、町民同士が協力して、地域の生活環境の維持や地域の安心・安全を守る「隣組」や「自治会」があると考えています。進行する人口減少・少子高齢化、多様化する家族構成や働き方等により、今までのような「助け合い、支え合う」ことが難しくなりつつあります。本町ではこれまで「自助・共助・商助・公助」による協働のまちづくりを掲げ、まちづくりを進めてきました。</p> <p>指針案では、自助・共助・商助・公助と協働の領域を図示するとともに、地域でできることは地域の自主性や主体性に基づいて取り組むこと、民間の活力や創意工夫を活かした方がより効果的に取り組めるものは地域活動団体や事業者などの民間に任せること、法の義務付けのあるものなど行政が担うべき分野は行政がしっかり取り組むこと、また、町民と行政がお互いに補完・協力し合いながら進めた方がよいものは、それぞれの強みを活かした協力・連携・協働で取り組むことが必要である旨を記載して(指針案P.4～6_(3)「協働」により目指すまち)おります。</p> <p>いただきましたご意見を参考に、より分かりやすい記載となるよう再考します。</p>
4	基本的な考え方	P.4_(3) 「協働」により目指すまち	<p>一人ひとりが地域のことを「自分ごと」として考え、…と述べられる「自分ごと」という表現について</p> <p>文中の備考欄で「自分ごと」の扱いについて「本指針において「自分ごと」とは、自分に関係のある、自分にとって大事なことであると捉えること。」と補足されていますが、「自分に関係する」「自分にとって大事なことである」がゆえに、後退的に作用することもあります。</p> <p>ここで「自分ごと」という言葉が用いられているのは、おそらく対極に位置する「ひとごと」「よそごと」「自分に関係ないからどうでもよい」という扱いにしないためと思われる。</p> <p>しかし、「自分ごと」に関係するとなった時、湧いてくる発想は様々で、事によっては、自分に関係するとなると「自分には無理」、自分にとって大事なことから「ほかの方法論が受け入れ難い」、「自分だったら我慢する」、「大事だとしても、自分だったら仕方ないと思うのだから、あなたも諦めなさいよ」あるいは「自分はこの部分が大事なのだから、あなたもこのように大事にしなさいよ」という場合もあります。</p> <p>そこで、「自分ごと」という言葉で整理するのではなく、ストレートに「自分が生きる場所、環境を良くするために、自分自身が関わって考え、ともに知恵を出し合い」・・・責任感をもって臨んでほしい旨をそのまま謳うのはいかがでしょうか。</p>	<p>本指針(案)内に出現する用語説明として、「他人事：自分には関係のないことと捉えること」と対比する表現として「自分ごと」と表現しています。</p> <p>ご意見のとおり、「自分ごと」に対する一人ひとりの解釈の差異がなるべく生じないような表現を検討するとともに、協働への理解深化を図ってまいります。</p>
5	基本的な考え方	P.8_(5) 「協働」の進め方	<p>人材、人を育てることを視野に入れ、ステップを整理いただき有難うございます。</p> <p>問題の洗い出し、課題の整理、共有が、第一ステップとして大変重要だと思うのですが、その「共有の仕方」がこれまた大切に思います。</p> <p>どのような場をつくっていくことが、“対話”として深められるか。(議会のかたちも見直す必要があるとも感じます)</p> <p>どのような仕組みを形成していくことで、進めることができるのかこそ知りたいですし、企画やつくる段階から、様々な立場の者が関わって取り組んでいけたらいいなと思いました。(それがステップ2に「施策提案や企画段階の協働」になるのでしょうか。)</p> <p>ステップ5の段階で、「取組みの検証と次の取組みに生かす」に進んでいますが、検証の前に、ステップ4の中で、情報を共有し合い、実施を進めながら修正や模索できるゆりみとネットワーク体制もほしいと感じました。</p>	<p>地域課題の気づきと共有することが協働にとって大変重要であるとともに、地域住民自らが行う地域の課題解決に向けた活動(対話の場づくり等)への伴走支援が重要であると考えます。</p> <p>地域課題を話し合ったり、改善提案等ができるような対話の場を町民の皆さまとともに作りあげ、住民参画による町政の活性化を図っていく上での貴重なご意見として承ります。</p>

6	方向性	P.9_(2) 取組を推進する	<p>10ページ(表1)重点的に推進すべき4つの項目について</p> <p>[取組目標1]財源確保や有償ボランティア等による地域運営の推進について</p> <p>ボランティアだけで進めようとする、結局負担的な荷重がかさばり、持続性を欠いてしまったり、行政にまかせてしまいたくなるので、お金のことを踏まえて推進いただけるのは有難いです。</p> <p>財源確保として、“予算申請”(まずは条件に細かなしぼりをつけずに、どうしてそれが必要かを考えられること)ができる体制もほしいと思いますし、そのために収益をどう組み立てるかが相談できる体制も必要かと思います。</p> <p>飲食に掛かる経費は、補助対象外とみなされることがありますが、ボランティアの内容によっては、時給制ほどの賃金が出なくても、飲食やガソリン代がまかなわれる(こどもの分も含め)なら、楽しみ集いやすい場ができる場合もあるのではないかと思いますので、有償ボランティアと併せて考慮いただきたいと思います。</p>	<p>指針(案)において、「多様な主体による協働のまちづくり」を推進するための3つの方向性の一つとして(3)地域課題の解決に向けた取組を伴走支援する を記載しています。</p> <p>自治活動や地域活動を始めやすく、続けやすいものになるように環境を整え、推進していく取り組みが重要であると考え、自治会や地区公民館、地域活動団体等の活動が持続可能なものとなるよう、相談・調整・情報共有・コーディネート等の支援など伴走することとしています。</p> <p>取組を進めていく際の貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
7	方向性	P.9_(2) 取組を推進する	<p>[取組目標2]「対話」/場づくり/仕組みづくりについて</p> <p>「協働」のステップ1や[取組目標1]に通じるところがあるかと思いますが、個人や団体等の「やりたい」の声に対し、その「やりたい」を実現するために、現状で足りない力の部分(労働力的な数だけでなく、求める才能や技能)や必要な物(譲れる物、使ってもらえる場所など)や知識(やり方のアイデア、使える補助)等を共有できる体制が欲しいと思います。</p> <p>また実施に伴い、プレイヤーおよび場づくりを支える交通整理や共有をはかる働きへの人件費を考える仕組みであってほしいです。(人材育成)</p>	<p>指針(案)では、協働に取り組む際の大切な考え方として、2.「協働のまちづくり」の基本的な考え方(4)「協働」のみんなの決めごとにより開かれた情報交換や相互理解、多様な主体との学び合いなどを記載しています。</p> <p>町内で活動されている団体等が知り合いつながるきっかけとしての対話の場が求められていると認識しています。</p>
8	方向性	P.9_(2) 取組を推進する	<p>[取組目標3]「支え合う」地域活動の推進について</p> <p>“YOSANOのあちこちで助けてとつぶやく～ヒーローは70代～”(「よさの」があえて英字にされているのは、何かの頭文字の韻をふんでいるのでしょうか?)</p> <p>町内のあちこちでつぶやかれる助けを求める声を救うのが70代の方、という意味でしょうか。</p> <p>町内の様々な立場の人が、気軽に助けを求めやすくなると良いなと思います。しかし、「助けて」のつぶやきをヒーロー任せで、解決できるのでしょうか。</p> <p>「ヒーローは70代」と謳われることにおいて、過度に担ぎ上げる感じがあって抵抗を感じます。70台を超え、故障に見舞われる姿も多々あり、身体を労う度合いもふまえながら活躍できる体制で、[取組目標2]で掲げられる“あたま(思考)も体(フットワーク)も柔らかく”臨めるように、世代別の方との関わりの中で進められることを願います。そして、70代の特定の期間を「ヒーロー」という輝かしさで謳うのではなく、もっと若くても、ずっと幼くても、はたまた80代90代…と更に齢を重ねても、活躍できる場があってほしいものです。</p> <p>どの層が、誰が、ヒーローということではなく、まさに“多様な主体が”それぞれ活躍できる「支え合い」の体制が大切だと思います。</p> <p>また、偏った世代を頼みの綱にしない視点として、この「支え合い」の仕組みの中に『教育』も視野にいれて頂けると嬉しいです。</p> <p>「人が生きるために力をつける」学びの基本に立ち戻り、人材教育に通じる大切な学びの現場として、考えていただきたいです。</p> <p>小学生、中学生、高校生、はたまた学校に足を運べない方も含め、それぞれが学校という枠を超えて、多様な人と出会ったり、暮らしには何かが必要が見つめたり、ものごとの進め方の模索や心情をはかる体験と一緒に取組みながら、思考を深め、交流できる場として活かしてほしいです。現在のカリキュラムでは既存の授業や部活との折合いが難しく、更なる負荷的位置付けに捉えられそうですが、そもそもの教育の設計段階での見直しが必要ではないでしょうか。</p> <p>また、いくつ齢を重ねても、生きているかぎり学びはつきないはずで、支えは必要としても、幼年～老年、どの齢の位置にあっても、がんじがらめに縛られたり他者に委せきりになったりすることのない、自身で思考することを諦めない環境であってほしいともいます。</p>	<p>ご意見のとおり、地域で「支え合う」地域活動の推進は、年代・世代を問わず、多様な主体がそれぞれの強みや得意を活かし活躍できる体制が大切であると考えます。</p> <p>“YOSANOのあちこちで助けてとつぶやく～ヒーローは70代～”は、地域と行政との対話・意見交流会において出されたキャッチコピー案で、地域の共通した課題の一つである地域における担い手不足・高齢化を踏まえ、退職された方や退職相当世代の地域活動参加への期待を込めた表現としていますが、本指針(案)で示す多様な主体を踏まえ、キャッチコピー案の表現を検討します。</p> <p>また、学びの場としての対話の観点については、今後の取組を進めていく際の貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>

9	方向性	P.9_(2) 取組を推進する	<p>【取組目標 4】 デジタル活用について</p> <p>与謝野町のLINEマガジンがとても便利で有難く利用させて頂いております。</p> <p>会議やミーティングなども内容によってはオンラインの活用や、区内の情報共有にも、デジタル活用が普及してほしいところです。しかし、情報を共有したい輪の中で、情報を受け取る媒体がない、扱えないというハードルもあります。ハード面でのサポートも推進において必要を感じます。</p>	今後の取組を進めていく際の貴重なご意見として参考にさせていただきます。
10	参考資料	P.13_与謝野町の現状	<p>与謝野町の現状グラフ_人口推移</p> <p>人口の推移がよくグラフで提示されますが、人数の数字ばかり突き付けられても、漠然とした不安感だけ煽られているようで、課題解決に向かいにくい気がいつもします。</p> <p>より生きたくなるような。働く場があって住める場所があり、個々の居場所があるような、より命を生み出し守り育てられる状況にもっていくためには、どういった問題があることを知り、考えていく必要があるのでしょうか？</p> <p>今ある命の数でも既に生きにくい状況で無視されているとしたら、仮に数が増えたとして増えるだけでは、混沌としたような気もしてしまいます。</p>	与謝野町の現状を知ることは、地域課題を把握する資料の一つであると考えます。貴重なご意見として承るとともに、今後とも町政の推進にご協力いただきますようお願いいたします。
11	参考資料	P.13_与謝野町の現状	<p>与謝野町の現状グラフ_空き家の状況について</p> <p>各地域、かなりの軒数で増加しているのは分かるのですが、いざ移住や拠点展開を検討されている方々にご紹介できる物件が僅かしかないのはどうしてでしょうか。</p> <p>物件数の推移のグラフよりも、どういった状況で新たな利活用につながらないのか、どういった問題が空き家と結びついているか、現場の状況や条件などを共有いただきたいです。</p>	空き家は地域課題の一つです。ご意見のとおり、空き家活用に向けた課題を共有することは重要であると認識しております。いただきましたご意見を真摯に受け止め、施策立案や施策の改善等に生かしてまいります。
12	参考資料	P.13_与謝野町の現状	<p>与謝野町の現状グラフ_まちづくりへの町民参画の現状</p> <p>地域づくりへの参加につながる工夫・手法の検討について、17ページの最後に記された「参加につながる工夫・手法の検討が重要であると言えます。」というメッセージが本当にそうだと思います。関心があるなし関係なく、〈必要なこと〉として、時間の使い方も加味した工夫や参加に手応えや利点を見出せる手法を見出せるようになることを願います。</p>	これからの地域づくりやまちづくり、協働のあり方について、地域の実情に合わせた工夫や手法を見出していただけるよう地域と一緒に取り組んでまいります。